

茨城大学基金 *Next Step*

2020（令和2）年度活動報告

1. 基金申込実績について

①活動概要

2020（令和2）年度の茨城大学基金では、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学生への緊急支援、教育学部附属中学校の校舎改修工事に伴う「附属中学校高度化支援基金」の募集を中心に行いました。

卒業生、附属中学校の卒業生、同窓会、保護者の皆様や地域の皆様へご寄附を募った結果、寄附総件数2,227件、寄附総額61,276,128円のご支援をいただきました。

また、令和2年度税制改正により税額控除対象となる「研究等支援事業基金」を立ち上げ、2021年2月から募集を開始いたしました。今後は、若手研究者に対する研究支援・能力向上を目的とした支援へ有効に活用することで、本学の研究力向上のみならず、我が国の研究力及び国際的プレゼンスの回復に貢献することが期待されます。

②収支のご報告

（単位：円）

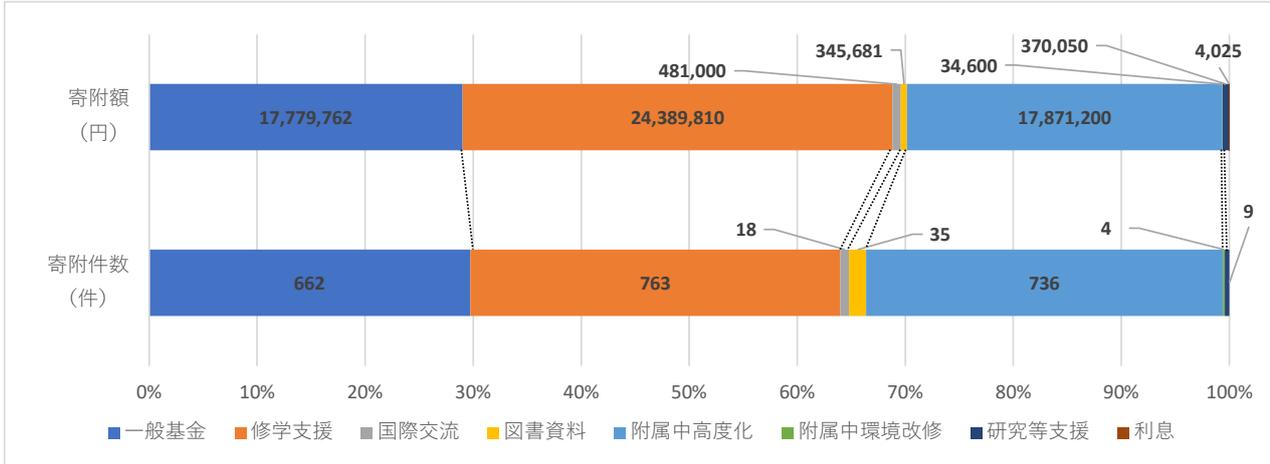
内訳	R1からの 繰越額 (R2期首残高)	R2 寄附受入額	R2 支援額	R3への 繰越額 (R2期末残高)	R2年度の主な支援内容
【一般基金】 茨城大学基金 ※利息含む。	353,867,280	17,783,787	25,364,280	346,286,787	・寄附者の意思及び大学の事業計画に沿った支援 ・緊急学生支援（貸与型） ・台風19号調査支援 ・人材育成プロジェクト ・AED整備支援 ・全学教職センターへの支援 ・教育研究・社会連携活動への支援 ・広報活動への支援
【特定基金】 修学支援事業基金	6,677,535	24,389,810	12,283,500	18,783,845	・修学支援事業（修学支度金）への支援 ※緊急学生支援（給付型）含む
【特定基金】 研究等支援事業基金		370,050	0	370,050	—
【特定基金】 図書資料および学習環境事業基金	448,395	345,681	400,000	394,076	・学外からでもアクセス可能な電子ブック契約
【特定基金】 国際交流・留学生支援基金	110,000	481,000	0	591,000	—
【特定基金】 附属中学校生活環境改修工事支援基金	103,000	34,600	137,600		・トイレ改修
【特定基金】 附属中学校高度化支援基金		17,871,200	15,000,000	2,871,200	・全教室にワイド型プロジェクター設置
【特定基金】 創立70周年記念事業基金（日立キャンパス）	2,048,000	0	2,048,000		・70周年記念事業：正門周辺整備支援
合計	363,254,210	61,276,128	55,233,380	369,296,958	

※利息は一般基金として使途分け

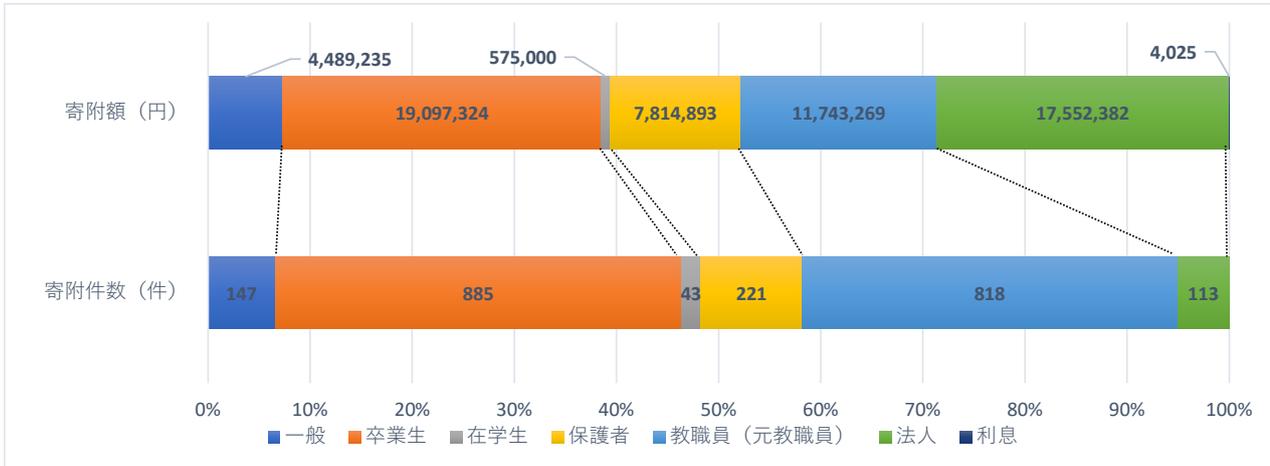
③2020（令和2）年度事業別、寄附者属性別寄附額・件数

③-1：2020（令和2）年度事業別寄附額・件数

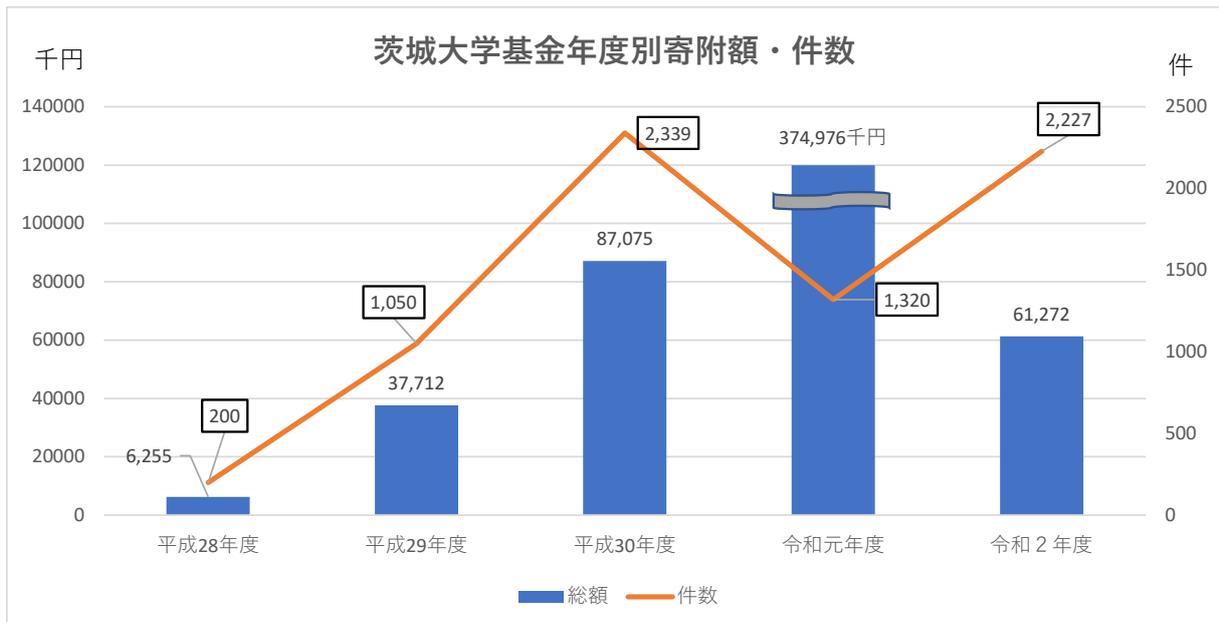
寄附総額：61,276,128円／総件数：2,227件



③-2：2020（令和2）年度寄附者属性別寄附額・件数

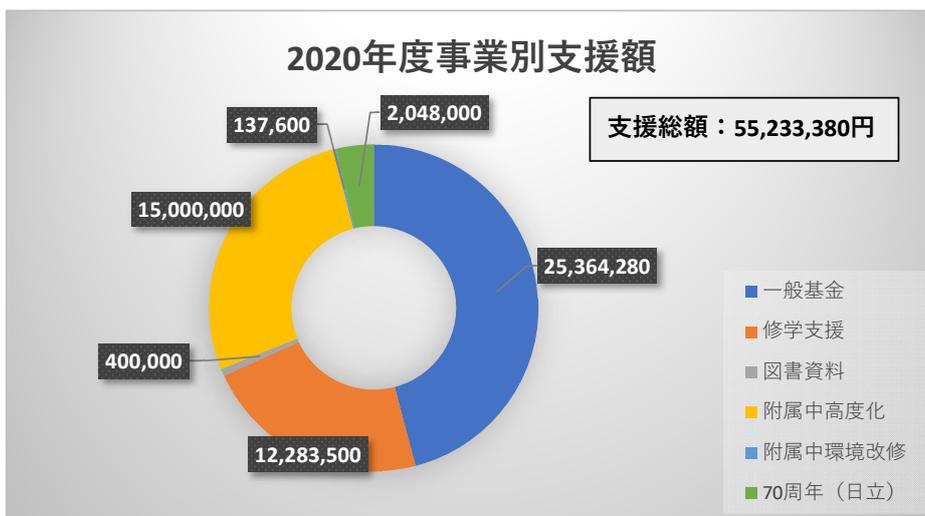


④茨城大学基金年度別寄附額・件数



2. 基金支援活動について

①2020（令和2）年度事業別支援額



②主な支援内容

一般基金

■令和元年度台風19号災害調査団への支援

《支援額：1,000,000円》

2019（令和元）年10月に茨城県内をはじめとする関東甲信越地方・東北地方に甚大な被害をもたらした台風19号災害について、被害の発生過程や農業・生態系への影響、避難の状況などを調査し、災害の状況把握と地域の復旧・復興、今後の持続的な地域づくりに寄与するため、「茨城大学 令和元年度台風19号災害調査団」が発足されました。



調査団は、伊藤哲司人文社会科学部教授、横木裕宗理工学研究科教授を中心に「被災過程解明」や「農業・生態系」をテーマとする5つのグループを構成し、研究グループごとに地域の被災者の方々のご協力のもと、2021（令和3）年3月に最終報告をまとめることができました。

一般基金へご支援いただきました寄附金の一部を当該調査活動に有効に活用させていただき、激甚化する自然災害への防災・適応計画に関する知見、実践を積み重ね、地域と共に共有していきたいと思っております。

※調査団の最終報告は、茨城大学ホームページにて公開しております。

https://www.ibaraki.ac.jp/uploads/hagi2019_research_finalreport.pdf

■地域社会との取り組みへの支援

《支援額：1,000,000円》

2020（令和2）年11月29日、12月6日に、「地域社会で活躍する人材育成 に関するプロジェクト・起業セミナー」をテーマに「あつまれ！起業家のたまごたち」と題し、オンラインによる「地域参加型の無料公開講座を寄附者の方からのご支援で開催することができました。

講師には、地域社会で活躍する若手起業家や起業のマインド育成の専門家をお招きし、高校生、大学生を中心とした参加者との交流が図られました。

本学では、今後もこのような地域参加型の取り組みによって、地域の多様な方々とのネットワークをつくり、知の拠点としての役割を担ってまいります。

ビジネスの
はじめの一歩を踏み出そう！
起業やビジネスに興味はあるけれど、
実際に行動しそどうか迷っているあなた。
大学教員や起業家の講演を聞いて1から学びましょう！
ビジネスの面白さに触れ、視野を広げる、そんな
はじめの一歩のオンラインセミナーです！

▶ 開催日時
令和2年11月29日(日) 14時00分～16時15分
令和2年12月6日(日) 14時00分～16時15分

Zoomによるライブ配信

▶ 受講対象
少しでもビジネスに興味のある
大学生・高校生・中学生 等

■ 定員 90名(先着順)
■ 受講料 無料
■ 申込方法
茨城大学リブレント教育プログラム公開講座
ホームページフォーム(専門コース起業セミナー)
よりお申し込みください。

■ 応募締切
令和2年11月23日(月)

■ その他
・講演の録音は録音してアーカイブを一定期間提供します。
・アーカイブ配布の要領には注意が必要です。

【問い合わせ先】
茨城大学社会連携センター (029-228-8413)

講師
今村 一真
人文経済学部長 教授

講師
光州 由佳
マーケティング学部長 教授

伊藤 幸一郎
専任講師 講師

高橋 健太
専任講師 講師

主催：茨城大学
後援：茨城県教育委員会

QRコード

《参加者からの声》

- ・軽い気持ちで参加したが、とてもためになった。特にビジネスモデルの考え方と実際に起業した人の経験談を聞くことが出来て良かったと感じた。
- ・どこから手をつけたら良いか分からなかったものの輪郭が見えた気がした。ひとまず、簿記、会計・会社法などについて学び、学生のうちに検証までもっていければと思う。
- ・失敗してもそれをただ失敗で終わらせず、経験とみなすポジティブなマインド・諦めない心は皆さん共通しているように感じました。スティーブ・ジョブズの「Connecting the dots」という言葉もあるように、今できることに精一杯取り組み、将来社会の役に立てる人材になりたいと思いました。

■学内AED整備支援

《支援額：854,832円》

現在、本学では、附属学校等も含め、約50台のAED（自動体外式除細動器）を設置しており、例年、指導者を招き、教職員・在学生を対象とした救急救命講習会を定期的に行っております。

一昨年度から、ダイドードリンコ株式会社様よりご支援いただいた寄附金の一部を水戸、日立、阿見の各キャンパスに設置されたAEDの整備・保守に充てさせていただいております。本学では、これからもより安全・安心なキャンパスづくりの向上に努めてまいります。



■「五浦コーヒー」事業による岡倉天心遺跡の保全、教育普及及び研究活動支援

《支援額：560,606円》

本学では、日本美術院創始者の一人である岡倉天心ゆかりの北茨城市・五浦地域のブランディング事業の一環として、「茨城大学国際岡倉天心シンポジウム2016」に合わせ、茨城県に本店のある株式会社サザコーヒー様と、当時、天心が愛飲していたコーヒーを再現した「五浦コーヒー」を共同開発いたしました。

株式会社サザコーヒー様からは、この売り上げの一部を本学へのご寄附としてご協力いただき、五浦地域の天心遺跡の保全や教育普及・研究活動に活用させていただきます。



特定基金

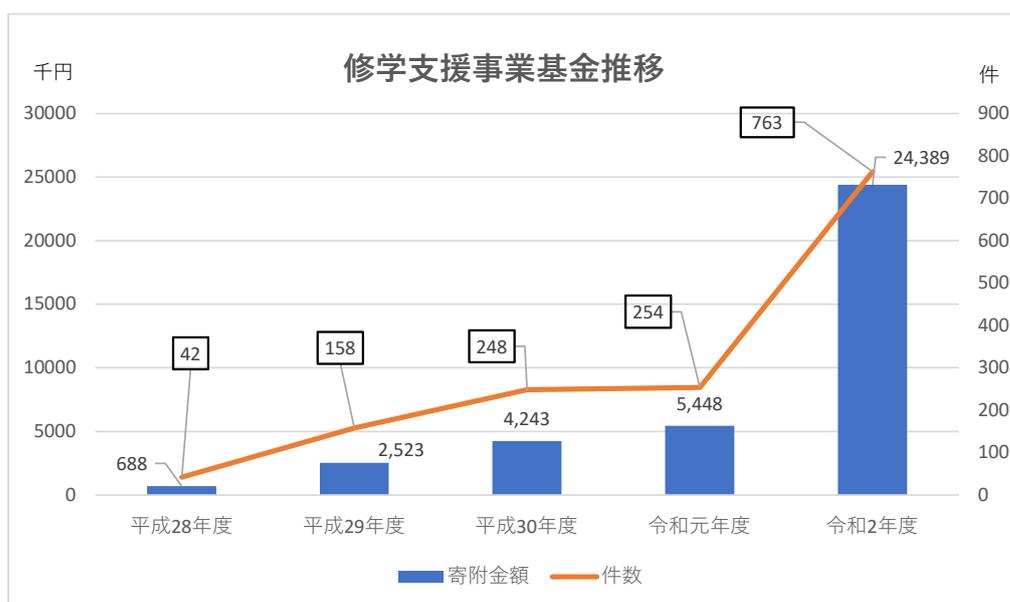
■ 修学支援事業基金（新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学生への緊急経済支援）

《支援額：12,283,500円》

本学では、新型コロナウイルス感染症拡大により実施した経済的に困窮する学生への支援『緊急学生支援パッケージ』のひとつとして、2020（令和2）年4月から独自の奨学金給付のためのご寄附を募ってまいりました。その結果、卒業生、教職員や地域の皆様から、約760件、2,400万円を超える多大なるご協力をいただき、2020（令和2）年度中に約500名の学生に総額約2,000万円（本寄附以外の予算を含む）を支援することができました。

支援を受けた学生からは「今回の支援のおかげで、博士課程の研究に集中できた」、「この奨学金のおかげで自分の修学に全力で取り組むことができた」といった声も数多く寄せられました。

2021（令和3）年度も引き続き学生の経済支援を積極的に行ってまいります。



《ご寄附をいただいた皆様からのメッセージ》

一般の方

- ・ 地元の大学の学生の困難を少しでも助けられればと思い、寄附しました。
- ・ 今のような状況だからこそ、より学び、感じ、遊び、恋愛してほしい。若い方々が安心して過ごせる日常が未来です。
- ・ 厳しい環境に置かれた学生の前途が少しでも明るいものにしたいです。

卒業生・修了生の方

- ・ 新型コロナウイルスの影響により、経済的な面で学業を続けることが難しい学生が増えていると報道で知りました。少しでもありますが、後輩たちの助けになればと思い寄附いたします。
- ・ 大学時代で学んだことが今の仕事につながり、四年間の大学生活にとっても感謝しています。学びを続けてほしいという願いをこめて、寄附いたします。
- ・ 30年前、授業料を免除いただき修学することができました。そのときの恩を母校にお返しすることでコロナ禍で困窮する後輩への支援となればと思い、微力ながら寄附させていただきます。

保護者の方

- ・ コロナの影響で退学する学生が出ないことを祈ります。
- ・ コロナウイルスで生活が困窮してしまった学生の役に少しでも立てれば嬉しいです。

《学生からのお礼のメッセージ》

人文社会科学部 3年

1度目の緊急学生支援奨学金を受給させて頂きました。私はアルバイトの収入があることによって、大学に通うことで金銭的に両親に負担をかけてしまっているという罪悪感をなんとか感じないようにしてきました。しかし、このコロナ禍で、アルバイト収入が得られなくなってしまい、自宅にいる時間が増え、自ずと一人で考え込んでしまい、罪悪感に苛まれてしまうようになりました。また、食費や光熱費なども削らなければ、とお金のことばかり心配しなければならなくなり、不安ばかりで、気持ちが塞ぎ込んでしまっていました。今思えば、大学生の本業である学業のことに身が入っていなかったように思います。

そんなときにこの奨学金を頂けたことは、本当に救いでした。これで両親に迷惑をかけずに済んだ、と思えたときに、本当に心が軽くなりました。食事も安くすむものばかり買ってかなり偏ったものになっていたのもうれん草などの野菜など、買っていなかったのを買ったのも嬉しかったことを覚えています。

お金がなくなると本当に精神的に追い込まれ、そればかり考えてしまうことを痛感しました。奨学金を頂けたことは、心の安定や健康な体の維持にもなったと実感しています。両親も本当に感謝しておりました。

この奨学金を成立させて下さった方々に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。これからの大学生活も、精一杯、積極的に学びを得る姿勢を忘れずに過ごしていきます。

教育学部 3年

ご支援ありがとうございました。コロナ禍で中々外出できない日々が続きますが、あたたかいご支援をいただけることは、学生として、勉学の励みとなりました。いつか私の後輩たちに、今回の恩返しをしていきたいと思えます。

理学部 2年

おかげさまで勉学に集中することができております。この感謝の気持ちを胸に、今度はわたしたちがいつか力になって皆様のお役に立てるよう、いまは勉強を頑張ります。寄附していただいた気持ちが何よりもうれしいです。ありがとうございました。

工学部 4年

新型コロナウイルスの影響でアルバイト収入がかなり減ってしまい生活が厳しい状況でしたが、奨学金のおかげで、なんとか生活を維持できました。

農学部 2年

寄附をしていただき誠にありがとうございました。本来期待していた生活がこの状況下で変わってしまい、不安がたくさんつづいてきました。アパートは、学校の対面の授業がいつ開始するかわからない状況であったので、借りっぱなしの状態でした。結局1年間アパートで住まずに、家賃を払うことになってしまったので、給付して頂いたものをアパート代に当てられ、本当に感謝しております。ありがとうございました。

大学院 1年

この度はこのような経済支援にご協力賜り、大変感謝しております。私は両親からの仕送りは無く、生活費をアルバイト収入で賄っていたため、生活費として使わせていただきました。また、一部は就職活動の為の情報収集として、書籍を購入させていただきました。この恩を忘れず、私も将来未来の学生に対し、是非何かしらの形で応援したいと思います。

■附属中学校高度化支援基金の取り組み

《支援額：15,000,000円》

2020（令和2）年8月に設置された「附属中学校高度化支援基金」は、これまでに延べ約700名の卒業生（附属中・教育学部）、保護者、教職員や地域の皆様からのご支援をいただいております。2022（令和4）年の完成に向け、校舎の改修工事を進めておりますが、2020（令和2）年度は、全教室にワイド型プロジェクターを整備するために活用させていただきました。この度の改修工事は、校舎の老朽化はもとより、生徒たちの可能性を広げるためにICT技術を活用し、より質の高い教育環境の整備を進めていくものです。また、それだけに留まらず、教員の授業の質・指導力の向上にも活用させていただきます。



■図書資料および学習環境事業基金（茨城大学図書館への支援）の取り組み

《支援額：400,000円》

本基金は、学生用図書・雑誌の購入、図書館の環境整備支援を目的として2019（令和元）年度に設置され、今年度は、古本募金を含め総件数35件、総寄附額345,681円のご支援をいただきました。

いただいたご支援は、今般の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により来学できない学生への学修支援として、学外からでもアクセス可能な電子ブックの購読費用に活用させていただきました。その一環として昨年7月1日から8月31日の期間、Maruzen ebook LibraryとKinoDenの2つの電子ブックコレクションの試読サービスを提供いたしました。

本学図書館では、コロナ禍であっても学生たちが学修の機会を奪われないよう、これからも様々な方面からの支援を行ってまいります。



■創立70周年記念事業基金（日立キャンパスへの支援）の取り組み

《支援額：2,048,000円》

創立70周年記念事業基金（日立キャンパスへの支援）では、卒業生、地域の方や多賀工業会（工学部同窓会）をはじめとする多くの皆様方からのご支援をいただきました。

一昨年の2019（令和元）年、本学は創立70周年を迎え、日立キャンパスへの支援のためにいただいたご寄附は、日立キャンパスの正門周辺環境の整備のために活用させていただき、環境整備を進めてまいりました。この整備の一環として、本学工学部・茨城交通株式会社様・日立市公共交通会議様の三者でパートナーシップを締結し、地域や学生・教職員の憩いの場とバス待合所を兼ねた休憩所を設置することとなりました。

休憩所の設計にあたって、工学部・大学院理工学研究科の学生を対象としたデザイン・コンペを開催し、その結果、大学院理工学研究科博士課程の中根央喜さんのデザインが最優秀賞に選ばれました。



《中根さんのデザイン》

中根さんがデザインを行った休憩所は、2020（令和2）年11月5日、良く晴れた秋空の下、完成披露会を迎えることができました。

考案者の中根さんは、「大学の授業で構造などの詳細まで考えられる機会がなかなかなく、今回、いざ建築にするとという中でいろいろな壁にぶち当たったが、それを学生のうちに体験できたことが良かった。いろいろな方々の協力で建築が立ち上がっていくプロセスは感動するもので、建築の社会性というものを感じた。早く多くの人に使われているところを見たいです。」と期待されていました。

創立70周年記念事業基金の募集は、2020（令和2）年3月に終了いたしました。各キャンパス、学部への支援は、今後も継続させていただきます。



《完成披露会での中根さん》



《完成後の待合所》

3. 茨城大学基金感謝状贈呈式の実施

2021（令和3）年3月10日（水）に、茨城大学基金に多大なご支援をいただいた寄附者の皆様に、本学から感謝の意を表するため感謝状の贈呈式を行いました。

茨城大学基金は寄附金額に応じた顕彰制度を設けており、今回の贈呈式は、2020（令和2）年1月から12月の間に茨城大学基金創設以来の寄附累計額が個人で100万円以上、法人・団体で500万円以上のゴールドカテゴリーとなった寄附者の皆様をお招きして開催しました。

贈呈式では、学長挨拶及び感謝状・記念品の贈呈後、太田学長から大学や基金の近況報告、チバニアンを国際学会へ申請した研究チームの代表である理学部の岡田教授による、チバニアンや地磁気に関する講話があり、終始和やかな雰囲気での懇談が行われました。

贈呈式の後は、図書館1階に設置されている寄附者銘板の見学を行いました。

[ご出席いただいた寄附者の皆様]

石川武実 様

磯崎寛也 様

中井川正男 様（一般社団法人MIJW～水戸発夢を叶えるプロジェクト～代表理事）

[大学側出席者]

学長 太田寛行

理事 久留主泰朗

理事 山岸仁

理事 鳥羽田英夫

理学部教授 岡田誠

総務部長 兼 基金同窓会課長 佐藤秀雄



お問い合わせ・お申し込み先

国立大学法人茨城大学 基金・同窓会課
〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1
電話：029-228-8781 FAX：029-228-8249
Mail：kikin@ml.ibaraki.ac.jp
URL：https://www.ibaraki.ac.jp/fund/



茨城大学基金

検索